

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：32622

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2023

課題番号：17K08907

研究課題名(和文) 男女共同参画の視点を持つ医師を育成するキャリア教育プログラムの開発と効果の検証

研究課題名(英文) Development of career education program for promoting gender equality awareness for young physicians and evaluation of its effect

研究代表者

有馬 牧子(Makiko, Arima)

昭和大学・医学部・准教授

研究者番号：30714943

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：医学部の卒前教育として、男女共同参画意識の推進やキャリアデザイン立案能力の育成に関する教育プログラムを提案するため、全国の医学系大学のキャリア教育・ダイバーシティ教育の実施状況を調査した。それら調査内容を基に、上記意識の推進に有効な講義のカリキュラムを提案してモデル実施を行い、その効果を検証した。各医学系大学のダイバーシティ・キャリア教育の状況を調べた結果、扱っているダイバーシティの課題が異なり、本テーマに一貫したカリキュラムがないことが示唆された。3校に講義・演習形式で講義を実施し、仕事と生活を統合したライフキャリアレインボーの作成等が上記意識の推進に一定の効果があることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

他大学での講義の実施状況において、一貫したダイバーシティ・キャリア形成のカリキュラムがないことが示唆された。そのため、今後はある程度一貫したカリキュラムに基づいたキャリア教育を行うことで、教育効果の検証や評価がしやすくなると提案できる。講義の内容として、仕事の面だけではなく個人の生活・育児・介護・自己研鑽等も含めた「ライフキャリア」の概念でキャリア教育を行うことが有効であり、それにより男女共同参画意識やキャリア形成意識の向上に有効と示唆されたことに学術的・社会的意義があると考えられる。現在、医学部の女子学生比率が全国的に高まっており、卒後に男女ともにキャリア形成しやすい風土が必須である。

研究成果の概要(英文)：In order to propose an educational program for promoting gender equality awareness and fostering career design planning skills as part of pre-graduate medical school education, we surveyed the implementation status of career and diversity education at medical universities nationwide. Based on the survey results, we proposed a lecture curriculum effective for promoting the above awareness, implemented a model, and verified its effectiveness. The results of the survey on the status of diversity and career education at each medical school suggested that the diversity issues being addressed differed and that there was no consistent curriculum on this topic. The results suggest that the creation of a life career rainbow that integrates work and life has a certain effect on the promotion of the above awareness.

研究分野：ダイバーシティ&インクルージョン

キーワード：ダイバーシティ 男女共同参画 キャリア形成

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 医師の男女役割意識の状況

研究代表者らは、これまで医学部の卒業生を対象に「医師の男女役割意識」に関する調査研究を行ってきた。国立大学医学部の卒業生を対象に行った調査において、「女性医師が仕事を続ける上で必要と思われること」について、女性医師の8割が「男女共に公平な支援制度」と回答していた。日本医師会が女性医師を対象に実施した調査では、「女性医師としての悩み」として「男性主導社会」が最も多く回答されていたことから(1)、医師の男女役割意識が残っていることが示唆されている。

(2) 女性医師の今後の増加に向けた提案

この状況を改善するには、仕事とプライベートの両立を含めた卒前のキャリア教育の実施が有効であることを研究代表者らは明らかにしている(2)。医師国家試験合格者の女性比率が増えている一方で、出産・育児を理由に離職する女性医師の割合は7割と高く(3)、女性医師が出産・育児を経てもキャリアを継続していけるためのキャリアデザイン立案能力を形成していく必要性が高い。そのためには、女性だけでなく男性も含めた共通の課題として、男女共同参画意識やダイバーシティ意識の推進が卒前教育として必要であると考えられる。また、卒前の医学部のキャリア教育、ダイバーシティ教育の現状についても調査をする必要があると考えられる。

2. 研究の目的

(1) 全国医学部の卒前キャリア教育の実施状況

医療現場においてダイバーシティ意識を推進するためには、医学部の卒前教育において男女共同参画の推進やキャリアデザイン立案能力の育成に関する講義の実施が不可欠である。しかし全国の国公立大学医学部においてキャリア教育の導入校は5割程度であり、その教育内容も標準化されていないことが示唆されている。本研究では、全国の大学医学部の卒前キャリア教育実施状況調査を調査することを目的とする。

(2) キャリア教育モデルプログラムの提案とその効果

上記調査結果を基に、男女共同参画意識の推進及びキャリア形成を目的としたキャリア教育のモデルプログラムを提案する。当該プログラムをモデル講義として医歯学部の講義で実施し、その効果を検証することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 全国医学部のキャリア教育・ダイバーシティ教育の実施状況調査について

全国の国公立大学医学部の当該講義のシラバス、講義内容を図書館・文献・インターネット上で検索し、実施内容(対象学年、講義回数、対応しているダイバーシティの内容等、演習・講義形式と内容、PBLのテーマ等)に関する全国リストを毎年作成した。医学系大学で当該講義を実施している担当者にヒアリングを行い、講義内容についてオンラインでインタビューを行った。当初は全国の国公立大学医学部の教務担当者にアンケート調査を実施し、講義の見学に行く予定であったが、COVID-19の影響により当該講義が中止・延期、あるいは講義形式の変更、担当者的変更が生じていた大学が多かった。そのため当初のアンケート調査実施を変更し、図書館やインターネット上の検索、オンラインインタビューにより調査を実施した。

(2) キャリア教育プログラムの提案とモデル実施について

上記の調査結果を基に、各大学で扱っているダイバーシティの内容、キャリア講義の内容をまとめ、分担研究者等と検討・推敲を重ね、キャリア教育プログラムを提案した。1回の講義において講義形式と演習形式を組み合わせ、仕事とライフイベントの両立を目指した内容の事例検討を導入した。米国大学のキャリア講義で活用されている、「ライフキャリアレインボー(D. Super 1976)」も取り入れ、学生が客観的に自身のキャリアの役割を可視化できる内容を提案した。これからのキャリアをモデル講義として実施し、その効果の検証として、受講者を対象に講義の事前と事後にアンケート調査を実施した。

4. 研究成果

(1) 全国医学部のキャリア教育・ダイバーシティ教育の実施状況調査について

全国医学部での講義の実施状況においては、専門科目・一般教養の区別、実施学年、対応しているダイバーシティの内容等について検索を行い、その経年的な内容のリストアップを作成した(表1)。対応しているダイバーシティの内容は、性別、性的指向、民族、国籍、宗教、働き方、障がいの有無、コミュニケーション等、大学によって異なることが確認された。また一般教養として実施している大学、専門科目として実施している大学、当該科目を未導入の大学がまだ4割ほどあることが示唆された。今後は各大学の特徴や校風などを取り入れながら、当該授業を導入

し、また一定したカリキュラムを導入していくことで、講義について一定の評価がしやすくなる
ことが想定される。
また他大学でのキャリア講義担当者のヒアリングについては、夫婦ともに医師のカップルで、子
どもが朝発熱した場合にどのように対応するかなどのケーススタディに基づく PBL 方式での演
習を実施しているなどの事例が紹介された。

表 1 . 全国医学部のキャリア講義・ダイバーシティ講義の実施状況リスト (一部抜粋)

1	A大学					
	専門科目					
	年齢	ジェンダー	性別	性的指向	民族	国籍
	一般教養					
	年齢	ジェンダー	性別	性的指向	民族	国籍
		○	○		○	○
2	B大学					
	専門科目					
	2024					
	年齢	ジェンダー	性別	性的指向	民族	国籍
			○	○		
	2023					
	年齢	ジェンダー	性別	性的指向	民族	国籍
			○	○		
3	C大学					
	2024	専門科目				
	年齢	ジェンダー	性別	性的指向	民族	国籍

(2) キャリア教育プログラムの提案とモデル実施について

上記の実施内容を基に、キャリア形成に関する講義のカリキュラム案を作成し、キャリアに関する定義、キャリア上の役割の発達と成長、ライフキャリアレインボーの作成(図1)及び演習として、将来想定される事例(医師夫婦の子どもが朝に発熱した場合、どちらが仕事を休むのか、休まない場合はどのように対応するのか、依頼できるリソースはどこにあるのか、夫婦間の男女役割意識などを検討する事例を作成した(図2)。これらの内容で、3校にモデル講義として実施した。

図1 , ライフキャリアレインボーの図(Super, 1976)

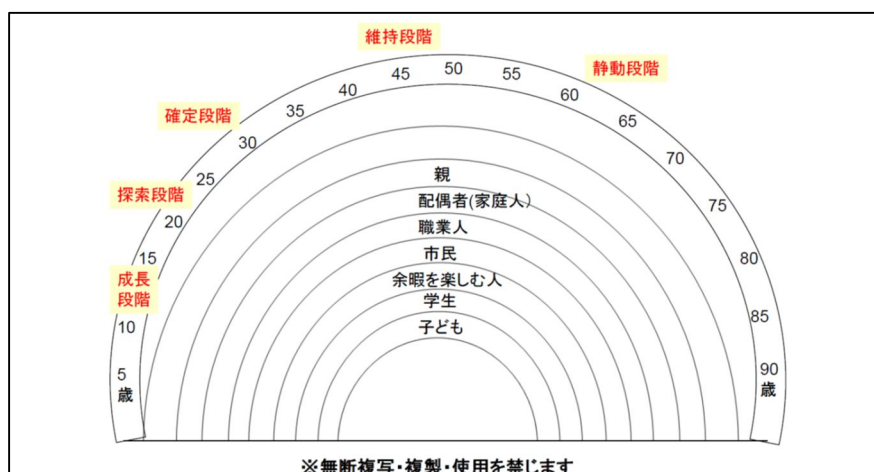


図2 . PBL 事例の教材例

<p>ケース「子供の発熱編」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夫婦共にフルタイムの医師として都内で働いています。 ・妻は消化器内科のクリニックで勤務し、夫は大学病院の脳外科に勤務しています。 ・2歳の長男は、自宅近くの保育園に毎日預けています。 ・長男が早朝に39.0℃の高熱を出しました。熱が37.0℃以上の場合は保育園に預けられません。 ・夫は午前から数件のオペがあり、妻も朝10時から外来が入っています。 ・さあ、どうしますか？(夫妻とも、実家は遠方にある) <p>ポイント:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夫と妻、どちらが小児科に連れて行くの？ ・夫と妻、仕事を休むの？休めるの？ ・この夫婦に、女性(母親)ばかりが育児をするという無意識の偏見はある？ ・他に育児を頼れる人(サービス含む)などは？

表2 . 講義前アンケートの結果

講義前アンケート(2022年、A校 N=98)				
	仕事と生活の両面から自分のキャリアを考えることは大事だ	仕事と生活の両面から自分のキャリアを考えてみたい	男女が性別に関わりなく、能力を発揮して自分らしく活躍することは重要だ	育児や介護など、ライフイベントに応じて柔軟な働き方をすることに賛成だ
非常にあてはまらない	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%
あまりあてはまらない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ややあてはまる	3.7%	3.7%	1.2%	3.7%
非常にあてはまる	61.0%	69.5%	67.1%	65.9%
わからない	28.0%	26.8%	31.7%	30.5%

表3 . 講義後アンケートの結果

講義後アンケート(2022年、A校 N=98)				
	仕事と生活の両面から自分のキャリアを考えることは大事だ	仕事と生活の両面から自分のキャリアを考えてみたい	男女が性別に関わりなく、能力を発揮して自分らしく活躍することは重要だ	育児や介護など、ライフイベントに応じて柔軟な働き方をすることに賛成だ
非常にあてはまらない	1.0%	1.0%	1.0%	0.0%

あまりあてはまらない	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
ややあてはまる	1.0%	1.0%	2.1%	5.2%
非常にあてはまる	74.2%	75.3%	71.1%	67.0%
わからない	23.7%	22.7%	25.8%	26.8%

表4 . 講義で学んだ結果の活用について

本講義で学んだことをどのようにしたいか	
活用したい	80.4%
活用したいが場面がない	14.4%
分からない	5.2%

平成 29 年度から令和 5 年度において、講義を実施した医療系大学 3 校において、講義前と後にアンケート調査を実施した。設問の内容は、「仕事と生活の両面から自分のキャリアを考えることは大事だ」「仕事と生活の両面から自分のキャリアを考えてみたい」「男女が性別に関わりなく、能力を発揮して自分らしく活躍することは重要だ」「育児や介護など、ライフイベントに応じて柔軟な働き方をすることに賛成だ」について、講義前と後で、講義に参加した学生に回答を依頼した。更に、講義後においては、「本講義で学んだことをどのようにしたいか」も設問に含めている。

2022 年に実施した A 校においては、講義前と講義後の回答結果を比較すると「仕事と生活の両面から自分のキャリアを考えることは大事だ」「仕事と生活の両面から自分のキャリアを考えてみたい」「男女が性別に関わりなく、能力を発揮して自分らしく活躍することは重要だ」「育児や介護など、ライフイベントに応じて柔軟な働き方をすることに賛成だ」の全項目において「非常にあてはまる」の回答が増えており、「分からない」の回答が減っていることが確認された。ライフキャリアやダイバーシティに関する講義の受講により、具体的な働き方の選択肢が提案され、より前向きな結果が得られたと想定される。また、今後の働き方やキャリアの方向性について主体的に考えられるようになり、「分からない」の回答が減ったと想定される。また本講義で学んだことについても設問に含め、「今後活用したい」が 8 割と高いことが示唆された。

本研究により、現在の各医学系大学のキャリア教育の内容を確認でき、今後は一定したキャリア教育のカリキュラムを提案することが必要と考えられる。講義の実施においては、ライフキャリアも含めた内容の講義を検討し、卒前教育に導入していくことが有用と考えられる。

5 . 引用文献

- (1) Makiko Arima, Yoko Araki, Sachiko Iseki, Chieko Mitaka, Nobuhide Hirai, Yasunari Miyazaki. 'Openness to Gender and Work-Term Diversity among Physicians in Japan: a Study of Alumni from a Japanese Medical School' Diversity and Equality in Health and Care, 2016, 13(1): 146-154.
- (2) Makiko Arima, Yoko Araki, Sachiko Iseki, Chieko Mitaka, Nobuhide Hirai, Yasunari Miyazaki. 'Seeking a 'career' and 'family': Factors of satisfaction in work-life balance among child-rearing female physicians in Japan, comparison between female physicians without children and male physicians' Health Science Journal, 2016, Vol.10, No4. 8. 1-11.
- (3) Makiko Arima, Yoko Araki, Sachiko Iseki, Chieko Mitaka, Nobuhide Hirai, Yasunari Miyazaki. 'Improving Japanese physician's Gender Role Attitude: Career Education and Adjusted Work Systems' Diversity and Equality in Health and Care, 2016, 13(2): 188-196.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 有馬牧子、Kris Siriratsivawong、後藤理英子、古田厚子、土屋静馬、川原千香子、高宮有介、Edward Barroga、緒方浩顕、泉美貴、槇宏太郎
2. 発表標題 医学系大学のダイバーシティ&インクルージョン(D&I)意識について
3. 学会等名 第55回日本医学教育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 有馬牧子、大城剛志、後藤理英子、古田厚子、土屋静馬、川原千香子、緒方浩顕、泉美貴、馬場一美
2. 発表標題 医学系大学におけるダイバーシティ&インクルージョンの意識調査から見た女性活躍の取り組みについて
3. 学会等名 第56回日本医学教育学会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 有馬牧子
2. 発表標題 医学生の将来設計意識を促進する要因について
3. 学会等名 第54回日本医学教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 有馬牧子
2. 発表標題 COVID-19で自宅待機中の医学生の生活習慣の変化と自己肯定感に及ぼす影響について
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 有馬牧子
2. 発表標題 男女共同参画の視点を持つ医師を育成するキャリア教育の実施効果について
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 有馬牧子
2. 発表標題 医療系大学における女性研究者のリーダーシップ向上意識について
3. 学会等名 第51回日本医学教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三羽良枝、安井禮子、有馬牧子
2. 発表標題 地域住民に対する健康教育と健康意識と健康行動の変化度について～地域包括ケア事業支援の取り組みから
3. 学会等名 第34回日本女性医学学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 有馬牧子
2. 発表標題 女性のキャリア形成におけるヘルスケアの重要性
3. 学会等名 第24回日本女性医学学会ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 有馬 牧子
2. 発表標題 医療系大学における女性研究者支援事業（連携型）の実施成果について
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平澤 恵理 (Hirasawa Eri) (50245718)	順天堂大学・大学院医学研究科・教授 (32620)	
研究分担者	泉 美貴 (Izumi Miki) (30228655)	昭和大学・医学部・教授 (32622)	
研究分担者	野原 理子 (Nohara Michiko) (30266811)	東京女子医科大学・医学部・教授 (32653)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------